

- 鹿追町は、畜産バイオガスプラントの消化液をバイオ液肥として供給。畑作農家は、バイオ液肥とともに、JA鹿追町が土壌診断を基に製造した農家ごとのオリジナルBB肥料を施用。これらの取組により、化学肥料の使用量低減を実現。

■ 国内資源の種類 ■ 肥料の種類・肥料名称 ■ 取組の経緯・内容・成果（見込み）

- ・牛、豚のふん尿
- ・敷料
- ・野菜くず

種類：消化液
名称：鹿追2号

取組の経緯

- ・鹿追町は畑作農家と酪農農家の間で土地を交換する「交換耕作」という輪作体系が普及しており、土づくりに牛ふん堆肥を活用してきた歴史がある。加えて、冷害を機に地力対策に注力し始めたことから、さらに家畜ふん尿の活用が進んだ。

■ 作物

- ・小麦
- ・ばれいしょ
- ・ビート
- ・豆類
- ・野菜等

■ 主要成分の含有量(%), 特徴等

N	P	K
0.3	0.15	0.4

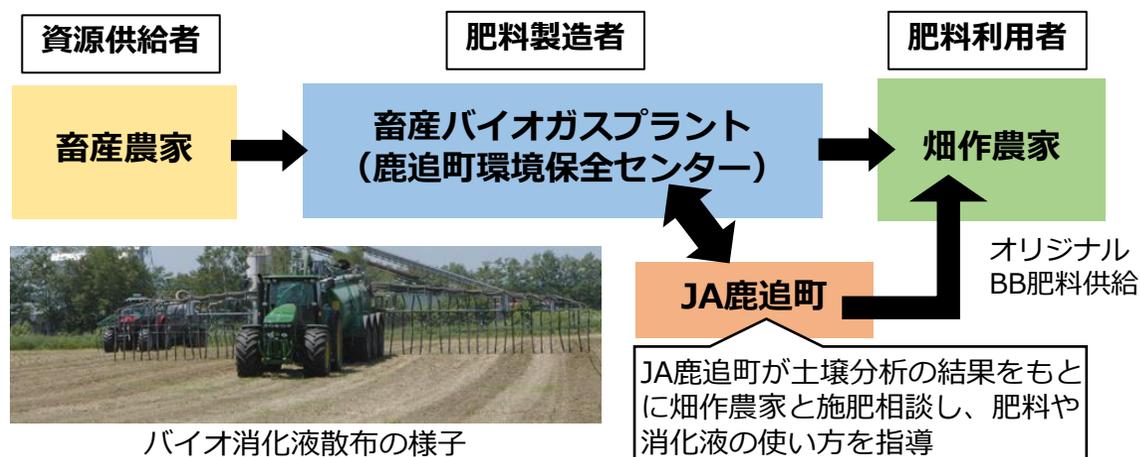
取組の内容

- ・町が畜産バイオガスプラントを整備。メタン発酵の副産物として生成されるバイオ液肥を元肥として土づくりに活用。
- ・町内の農地全筆においてJA鹿追町が土壌分析を行い、農家と対面で施肥設計を実施。農家ごとに配合割合を変えたオリジナル肥料をJA鹿追町独自の肥料配合工場で製造。

成果（見込み）

- ・農家ごとに肥料配合割合を変えた肥料、消化液及び牛ふん堆肥を畑作で活用することにより、収量を維持しながら、化成肥料の使用量を最盛期の半分にまで低減させることに成功。

■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■ 今後の課題・取組

- ・多頭飼育が進んだことにより乳牛のふん尿量が増加し、大規模なバイオガスプラントを2基整備した鹿追町においても、牧場から排出される乳牛のふん尿の3割しか処理できていないのが実態。
- ・鹿追町内にバイオガスプラントを新たに1基建設予定。
- ・消化液の散布農家・農地先の確保。
- ・運送タンクローリーのドライバー不足問題。
- ・輸送コストの問題。